

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3597100050		
法人名	特定非営利活動法人いい日の里		
事業所名	グループホームすこやか		
所在地	山口県大島郡周防大島町大字棕野1338-5		
自己評価作成日	令和 6 年 12 月 2 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様に寄り添い、家族的で心温まる介護・看護を心掛け、ご家族様との連携を大切にさせて頂いております。併設のデイサービス・小規模多機能型サービスの利用者様との、合同の集団レクや行事に参加して頂き、なるべく他者との交流の機会を持てるよう配慮しています。月1回の誕生会、行事等も職員手作りの雰囲気を利用者様に楽しく過ごして頂けるよう努めています。利用者様の健康を第一に考え、また食事が楽しみになるように、毎朝地元の新鮮な食材を買い求め、3食手作りで心を込めたバランスのよい、少量で品数が多い多彩な献立の副食を、提供させて頂いております。ご家族からも高い評価を頂いております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/35/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3597100050-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18
訪問調査日	令和 7 年 2 月 4 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念にもある「家庭的な雰囲気の中で明るく楽しく笑って生活できる施設を目指します」をモットーに職員一同協力している。3人の利用者がソファに腰掛けて、和気藹々とお喋りを楽しんでいる姿が飛び込んできて、手を振って出迎えてくれた。利用者にはできることをして頂きたいとの思いから、食後の片付けやリビングの掃除、洗濯物干しや畳む作業をして過ごしている。食事は3食手作りで、オーナーが献立表を作成し、食材の買い出しも担当している。残食はほとんどなく、利用者からは「美味しいです」の一言が聞けた。小規模多機能とデイサービスが隣接しているので、合同でのレクリエーション活動も実施している。風船バレーやバケツリレー、童謡や歌謡曲を歌い、誕生日会、ひな祭りや敬老会、クリスマス会といったイベントも楽しんでいる。施設の特徴はという問いに、ケアマネジャーは「利用者が毎日笑顔で過ごせるように、寄り添うケアを目指している。」と答えてくれた。以前100歳を過ぎた方が入居されていて、その方が亡くなった数日後に、家族の方から手紙が送られて来て、「幸せに過ごせました。ありがとうございました。」との感謝の言葉が書かれていた。これは日頃から利用者へ寄り添ったケアしていたことにも表れている。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に掲示し、毎日職員が見ることができるようにしています。月1回のミーティングで確認し共有しています。	理念は玄関の目の触れられるところに掲示して、職員への周知を図っている。月1回のミーティングにて、オーナー自らが確認する機会を設けている。特に「利用者様を孤立しない、させないように話しかけを致します。」については力を入れて取り組み、毎日利用者とコミュニケーションを取るよう心掛けている。	理念が細分化されているので、毎日の朝礼で再確認してみたいかがでしょうか。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方と挨拶、会話を通じて交流が深められるよう努めています。	近隣を散歩している際に、出会った方と挨拶を交わす関係が形成されている。近所の方から野菜の差し入れやパンの移動販売が楽しみとなっている。週4回、JAの移動販売もあり、地域との関りが持っている。法人のデイサービスや小多機の方達と合同レクを開催し、風船バレーやバケツリレーで盛り上がった。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居相談の方に認知症の方の介護について説明させて頂いています。			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員に外部評価の意味を説明しています。評価を活かして改善に取り組めるようミーティングで話し合っています。	外部評価項目に沿って、職員から聞き取りを行い、最終的にはケアマネジャーが取りまとめた。今回の外部評価を受診するにあたり、多くの気づきが生まれ、今後の参考に予定。また評価結果は、職員全員が閲覧できるようにしている。		
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現状の報告を行い、委員の方から改善点について意見を頂き、サービス向上の為に取り組んでいます。	地域包括支援センターの方、介護保険課の方、民生委員が3名、ケアマネジャーが参加している。活動報告、利用者状況、現状報告、ヒヤリハット報告を行った。議事録に利用者の年齢を書いて欲しいとの意見を頂き、次の会議からは、年齢を書き記して、見やすいように工夫した。		
6	(5)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	利用者様やご家族様の報告すべき事柄等連絡相談させていただいています。問題が生じた時は相談と指導を受けています。	運営推進会議には、介護保険課や地域包括支援センターの方が来られるので、情報交換ができています。町役場へは、介護保険更新時に出向いて、顔を合わせる関係づくりに努めている。直近では、ACP(人生会議)に関わる体験の案内が届き、実際に職員が参加して知識を深めた。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全な環境づくりを大切に考えています。身体拘束については、内部研修で勉強会をしています。玄関は施錠せず見守りを常時行っています。	運営推進会議と同時に身体拘束委員会を開催している。GH単体での研修は年2回あり、拘束に対する基礎知識や実際にしているかどうかの確認ができた。スピーチロックについても、職員間で意見を出し合って、なるべく言わないように注意を払っている。日中は玄関の施錠はしておらず、見守り体制を敷いている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや研修で話し合い、学習し虐待が無いよう防止に努めています。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修で学ぶ機会を持ち必要性を話し合っています。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際、確認しながら十分説明させて頂くよう心掛けています。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時の相談、苦情の説明をしています。苦情要望があれば申し送りやミーティングで話し合い、その都度対応しています。	面会は短時間・少人数で対面にて実施していて、月1回来られる方もいる。毎月「いい日の里通信」を発行して、写真付きで内部の様子を伝えている。苦情にならないように、何かあれば些細なことでも連絡を取り、安心して頂いている。出た意見は、申し送りノートやミーティング時に確認し、情報を共有している。	利用者や家族の意見を聞き取り、運営に反映できるようにしてみたいかがでしょうか。
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで意見提案を出し、全員で話し合っています。	毎月のミーティングやカンファレンス時に意見交換をしている。給料が手渡しなので、オーナーと顔を合わせる機会もある。何かあれば随時オーナーが個別面談を実施して、話し合いの場を設けている。スピーチロックについても職員間で意見を出し合って、なるべく言わないように注意を払っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の業務にやりがいを持って取り組めるように環境に配慮・整備に努めています。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人には、慣れるまで経験のある職員がついて指導しております。また、研修の機会を設けています。	法人全体で毎月研修を実施している。研修に出た職員が申し送りノートに記載して、他の職員に伝達している。資格取得に向けて、日々勉強している職員もいて、意識が高い。新入職員にはOJT(職場内訓練)による支援を行っている。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	周防大島町の同業者と交流を持ち、ケアマネ利用者様を通して交流を図っています。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションを良く図り、訴えの傾聴を行い、安心してなんでも話していただけるよう努力しています。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	笑顔で対応し否定的な言葉を使わず、不安な事要望等を話して頂けるよう努めています。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族の訴えの傾聴、ケアマネ、包括との連携、情報の共有に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	コミュニケーションを良く図り、できることは手伝ってもらい、人生の先輩として助言して頂いています。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	季節の衣類、布団等必要な物を持ってきて頂いたり、古くなった靴を買い替えて頂いたり、寂しい時メンタル面での支援をして頂いたりしています。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年賀状のやり取り、電話の取次ぎなどの支援をしています。お世話になった民生委員の方との連絡を取ったりしています。	面会は短時間・少人数で対面にて実施していて、月1回来られる方もいる。月1回、ドライブの日を設けていて、島を一周をして海や山を見て癒されている。自宅付近を通ると、利用者は笑顔になり、昔の思いに馳せている様子だった。利用者から家族に電話をしたいとの要望が挙げれば、施設の電話を貸して通話をされる方もいる。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席を配慮したり。職員が間に入ってコミュニケーションを図れるようにしたり、馴染みの職員が関わったりしています。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居された後もご家族が時々来られる方もおられ、関係を断ち切るという事はなく支援できる事は支援させて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の話を傾聴し、なるべく本人の望む暮らしをして頂けるよう努めています。	法人外の居宅や老人ホームから移られる方が多く、ケアマネジャーの方から情報を得ている。朝の「おはよう」から始まり、夜の「おやすみ」までの会話や挨拶を大切にしている。あまり言葉を発しない方へは、職員から会話をし、コミュニケーションが取りやすいように工夫している。掃除や洗濯物干しといったできる役割を与えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントによりご本人の状況は本人家族からの聴取で把握するよう努めています。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご家族からの聞き取り、日々の観察職員からの情報の共有により本人の現状の把握に努めています。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族の意見を聞いたり月1回のミーティングで入居者様の介護について話し合っています。	介護計画は、入居時に暫定プランを作成し、その後は3ヶ月、何もなければ1年毎に見直している。モニタリングは1ヶ月毎に見直している。本人や家族の意見だけでなく、介護保険更新時には、ドクターの意見も参考にしている。利用者が楽しく過ごせるように、合同レクに参加して、周りの方達との交流を図れるように配慮している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録で利用者様の情報の共有をしています。それを実践に活かせるよう努めています。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様のご要望は、最大限添うように取り組んでいます。日々の生活が変化のある楽しみのある生活になるようアプローチしていきたいと思います。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	パンの移動販売、ヘアカット、介護タクシー等の地域資源の利用により安全で豊かな生活が出来るよう支援しています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族が受診にお連れする方はご家族が。それ以外の方は施設の看護師が受診にお連れいしてします。ご家族の希望で訪問診療の方もおられます。体調不良時はかかりつけ医の往診をお願いします。	入居時にかかりつけ医は選べるが、元のかかりつけ医をそのまま受診されている方がほとんど。内科・他科については、基本家族で対応して頂き、どうしても場合には常勤の看護師が連れて行っている。法人の訪問看護ステーションを利用されている方は、現在5名おられる。歯科は、必要に応じて随時対応している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日2回の申し送り(夜勤者から日勤者、日勤者から夜勤者)には看護師が参加し、介護職員からの報告、相談に応じています。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際情報提供や、退院時のサマリーを頂いたり情報交換をしています。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に説明しており重度化した時はご家族に十分話し合い、主治医に依頼し支援に取り組んでいます。	入居時に、「重要事項説明書」や「看取りに関する指針」にて説明し、同意を得ている。看取りは施設内では行っておらず、重度化した場合には、ほとんどの方が入院されている。数年前に、100歳を越えて亡くなられた方の家族から施設に手紙が届き、「幸せに過ごせました。ありがとうございました」と感謝の言葉が述べられていて、職員の励みとなった。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている	毎日の申し送りで一人一人の状態を確認し事故防止に努めています。	事故防止のために、ヒヤリハットや事故報告書は第一発見者が記入するようにしている。2ヶ月に1回の会議にて、職員間で情報を共有し、再発防止に努めている。車イスからずり落ちた方への対応として、今後、職員の目の届くところにいて頂くように、対策を行った。	
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し月1回のミーティングで確認しています。	年2回、法人全体で夜間想定火災訓練を実施した。避難場所は目の前の公民館となっている。ハザードマップ、連絡網、避難経路は事務所に掲示している。備蓄は、水やレトルト食品、消耗品を3日分、倉庫にて保管している。民生委員の方と連携が取れる体制を構築している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
37	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇に関しては毎年研修をしています。尊厳やプライバシーを損ねないような言葉かけや対応に努めています。	呼称は苗字に「さん」付けで統一している。年1回、コミュニケーションを題材にした研修を実施して、接遇について学びを深めた。挨拶や丁寧な言葉遣いを心掛けている。居室に入る際は、「失礼します」やノックをしてから入室するようにしている。個人ファイルについては、机の引き出しの中に収めるようにしている。		
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを良く図り訴えの傾聴をし、ご本人の思いをくみ取れるように、自己決定できるように働きかけています。			
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務の流れではなく本人のペースを大切にし、パーソン・センタード・ケアの考え方でケアできるよう心掛けています。			
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人に服を選んでいただいたり、整容に関してはできる方はご自分でして頂き、できない方は介助で行っています。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	現在は調理できる方はおられません。かたづけはできる方にして頂いています。	3食手作りで、残食はほぼゼロ。オーナーが献立表を作成し、買い出しも担当している。家庭の色を大事にしている品数も多く、翌日にも同じ物を食すことで、フードロスをなくしている。夕食には、利用者に人気メニューの焼きそばが出ることが多い。誕生日には、全員でケーキを食べてお祝いをしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	少量で品数が多いバランスの良い食事を提供しています。水分を多めにとる必要のある方はOS-1を飲用して頂いています。食事量が少ない方は少なめに。その方にあった食事形態で提供しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアをして頂き、介助が必要な方は介助しています。義歯の方は毎日ポリドントを使用しています。		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで排泄できる方はトイレで排泄して頂き、トイレ誘導が必要な方はトイレ誘導しています。ご本人の状態により教室にポータブルトイレを設置したりして、なるべく失敗なくトイレで排泄できるよう支援しています。	トイレは3ヶ所あり、1ヶ所は車椅子での対応が可能な広さとなっている。排泄記録表を活用し、タイミングよく言葉掛けをしている。布パンツの方が2名、オムツ対応の方が3名、夜間のみポータブルトイレを使用している方は1名いる。排泄失敗時には、「汚れてるから替えようねー」と優しく言葉掛けをしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	副食は野菜を多めに使っています。朝食は果物、コーヒーを、また、朝食昼食時は具たくさん味噌汁を提供しています。毎日のレク時は体操をして頂き、毎日排便チェックをしています。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は週2回。時間は9～12時ですが曜日は本人のタイミングに合わせ、午後に入浴される場合もあります。	週2回としているが、入りたい方がいればその都度対応している。入浴を拒否される方はおらず、スムーズな流れでの入浴となっている。季節湯としてゆず湯の提供や入浴剤を使用して気分転換を図っている。5名の方が浴槽に浸かれ、3名の方がシャワー浴や足浴で対応している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人の状態に合わせ午前中休んで頂いたり、午後休んで頂いたりしていますが、夜寝られなくなる場合もありますので、昼夜逆転にならないよう日中はなるべく離床して活動して頂くようにしています。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	申し送りの際、看護師が薬の説明をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、新聞折、食器拭き、台拭きのお手伝いをして頂いています。塗り絵、字を書く、新聞を読む、雑誌を読む、テレビを観る、他者とコミュニケーションの支援をしています。	利用者一人ひとりの思いを汲み取り、その方に合った役割を担って頂けるように配慮している。食後には、食器拭きや台拭きをしている利用者の様子が窺え、「毎日楽しいです」との言葉が返ってきた。小説が好きな方は、小説に没頭していて、窓際のソファに腰掛けて、おしゃべりを楽しんでいる方もいた。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	施設内を散歩したり、施設の車でドライブをしています。	気候の良い日には、敷地内のベンチに座ってのおしゃべりや近隣の散歩に出掛けている。月1回、ドライブの日を設けていて、島を一周して海や山を見て癒されている。春には敷地内に満開の桜が咲きほこる。小多機やデイサービスとの合同レクがあり、利用者の気分転換が図れている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	以前は少し手元に置かれる方がおられましたが、認知症がありどこか違うところに置かれたり、「盗られた」と言われた事があり、現在は事務所でお預かりする事になっています。ご家族と一緒に外出された時にお金を使われる事もあるようです。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話していただいたり、ご家族から手紙やはがきが来れば本人に渡して見てもらっています。読めない方は職員が読んで差し上げています。		
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔で整頓された環境作りや快適な温度管理にも留意しています。季節の花を各所にいけるなど、思い通りに過ごせる空間づくりに心掛けている。	窓から外を眺めれば、自然の風景が目飛び込んできて、朝日や夕日も堪能できる。壁面には、利用者が折り紙で作成した作品や塗り絵が飾られていた。行事があればその都度写真を張り替えていて、現在は誕生日会の写真が飾られていた。窓際のソファに腰掛けて、おしゃべりをしている方もいた。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個室ユニット型なのでひとりになる時間はあります。ホールでの過ごし方に気を使っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	教室の清掃環境づくりに配慮しています。好きなものを持ち込まれたり自由性を大切にしています。家具や小物の配置等ご本人やご家族の希望を尊重し尊重しながら対応しています。	備え付け、ベッド、寝具、タンス、エアコン、カーテン、照明。居室に清掃は毎日行い、できる利用者には手伝って頂いている。居室では、雑誌や小説を読んだり、他の利用者を招き入れてお喋りを楽しんでいる方もいる。ひ孫の写真を大切に飾っている居室もあった。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差もなくフローリングで問題ないと思います。混乱や怪我がないように表示灯もしています。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24,25,26)	○	1. ほぼ全ての利用者の	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19,39)	○	1. 毎日ある	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31,32)	○	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				